

歯周外科治療を日常臨床に取り込もう！

ご案内

エムドゲインは自費だったが、リグロスは比較的良好な結果が得られ、しかも保険がきく。もちろん、水平的な骨吸収ではなく、3壁性などの垂直的な骨欠損なのだが。

日頃、面倒臭いイメージがつきまとい、ついつい敬遠しがちな歯周外科だが、もっと効率良く、手軽にできないものだろうか。そのための戦略、必要な術式のポイントは何だろう？

今回のセミナーは実践編で、高橋慶壮先生に症例をもとに歯周外科の術式を解説していただくことになっています。また、高橋教授の研究課題でもあるインプラント周囲炎の対策についても、知見を開示していただけるなど、内容の濃いものになりそうです。奮ってご参加下さい。

講師 高橋 慶壮 氏

奥羽大学 歯学部 歯科保存学講座 歯周病学分野教授、
日本歯周病学会常任理事（口腔インプラント委員会委員長）、
日本歯科保存学会常任理事、日本顎咬合学会指導医、
米国歯周病学会(AAP)国際会員、国際歯科研究会(IADR) 会員



«日時» 2019年 11月 17日 (日) 9:30~12:30

«場所» 石川県地場産業振興センター 5階 第12研修室
(石川県金沢市鞍月2丁目1番地)

«対象» 会員医療機関の歯科医師およびスタッフの方 (定員100人)

«参加費» 無料

参加申し込み方法は、裏面をご覧ください。

主催

石川県保険医協会

講師（高橋慶壯先生）のご紹介

【ご略歴】

1988年 岡山大学歯学部歯学科卒業
 1992年 岡山大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）
 1993年 英国グラスゴー大学歯学部（Prof. Denis F. Kinane に師事）
 1996年 岡山大学歯学部助手
 1999年 明海大学歯学部講師
 2006年 明海大学歯学部助教授
 2007年 奥羽大学歯学部歯科保存学講座歯周病学分野教授（～現在）

【主な研究領域】

歯周病学、歯内療法学、口腔インプラント治療学、国際英語論文 49編

【主な著書】

高橋慶壯「考えるペリオドンティクス－病因論と臨床推論から導かれる歯周治療－」（クインテッセンス出版 2018）、高橋慶壯「考えるエンドドンティクス－根管形成と根管充填の暗黙知と形式知－」（クインテッセンス出版 2015）、高橋慶壯「歯内療法における臨床思考の技術」（デンタルダイヤモンド社 2014）、高橋慶壯「歯周治療 失敗回避のためのポイント33～なぜ歯周炎が進行するのか、なぜ治らないのか～」（クインテッセンス出版 2011）、高橋慶壯、吉野敏明 編著「エンド・ペリオ病変の臨床 歯内-歯周複合病変 診断と治療のストラテジー」（医歯薬出版 2009）、高橋慶壯「歯内療法 失敗回避のためのポイント47～なぜ痛がるのか、なぜ治らないのか～」（クインテッセンス出版 2008）、平井 順、高橋慶壯「臨床歯内療法学 -JH エンドシステムを用いて-」（クインテッセンス出版 2005）

石川県保険医協会 <http://www.ishikawahokeni.jp/>

〒920-0902 金沢市尾張町2-8-23 太陽生命金沢ビル8階

T E L 076-222-5373 E メール ishikawa-hok@doc-net.or.jp

・・・講演抄録・・・

日常の歯科臨床は小外科治療の連続です。演者は歯周治療の一環として口腔インプラント治療を実践しています。過去10年の治療成績をまとめたところ、インプラントの生存率は96%でインプラント周囲炎、disintegration および偶発症で撤去したインプラントの解析から、過剰な咬合力の関与とハイリスク患者の存在が示唆されました。我々歯科医師は「準清潔領域」である口腔領域の感染防止管理を行いつつ、口腔機能の維持を図り、患者の口腔フレイルを防止することが社会から期待されています。歯周外科治療は口腔内の感染部位を取り除き、咬合力を受け止める歯周組織の安定を図るために不可欠です。

今回の講演では、フランプ手術、歯周組織再生療法（エナメルマトリックスタンパク質、リグロス）をはじめ歯周形成外科治療、インプラント治療およびインプラント周囲炎の外科治療について演者が実践している臨床と術式およびクリニカルパスを紹介します。

▽ 参加申込書 FAX（076-231-5156）

* 切り取らず そのままFAXで送信してください

* 電話、メール、協会ホームページからのお申し込みも可能です。

* 申し込み締め切り 11月11日（月）

医療機関名		
電話番号		
参加者氏名①（職種）	（ ）	
参加者氏名②（職種）	（ ）	
参加者氏名③（職種）	（ ）	